

平成27年度第3回意見交換会 議事要旨

(千葉市PTA連絡協議会と教育委員との意見交換会)

1 日時

平成28年1月28日(木) 16:00~17:15

2 会場

千葉市議会棟3階 第2委員会室

3 出席者

- ・千葉市PTA連絡協議会役員等 9人
- ・教育委員 6人(中野委員長、内山委員、和田委員、明石委員、小西委員、志村教育長)

4 意見交換テーマ

放課後の子どもの過ごし方について

5 会議経過

(1) 開会

・教育委員の発言者は次のように表記
中野委員長「委員長」、内山委員「内山委」、和田委員「和田委」、
明石委員「明石委」、小西委員「小西委」、志村教育長「教育長」
・千葉市PTA連絡協議会出席者の発言は「PTA」と表記

(2) 意見概要

◎会の冒頭で、PTAから放課後の子どもの過ごし方の現状などを報告

[PTA]

- 私の地区の小学校周辺には公園が多く、各自で公園に集まって遊んでいることが多いです。私の子は、1年生のときに子どもルームに入りましたが、「学校でも縛られ、子どもルームでも縛られるのは嫌だ」という理由でやめました。親としても、子どもルームが終わり暗い夜道を1人で帰ってくることを考えると、家にいてもらったほうが安心します。放課後子ども教室は、メインは5年生であり活動は月に2回程度です。地域柄、働いているお母さんや高齢者が多いため、コーディネーターのなり手が少ないです。コーディネーターによると、大規模校と小規模校では実施できる内容が違うので、現状を理解してもらうため、教育委員会の方にも抜き打ちで見に来てほしいとのことでした。
- 私の子は、1年生のときに子どもルームに通っていましたが、2年生になると友達と遊びたいと希望するようになりました。私はマンションに住んでいるため、周りに子どもが多い環境です。放課後子ども教室は、低学年のころは行っていましたが、高学年になると決められたことをするよりも、自由なことを自分たちの感覚でやりたいと望んだため、やめました。放課後子ども教室を運営している方の話では、登録している子の親は、年1回、運営に協力することになってはいるが、協力してくれる方は少ないとのことでした。また、運営費の中から購入してよいものの条件が決まっているので、企画に悩んでいるとのことでした。

- 私の地区は団地が多いため、子どもたちは団地の公園で遊んでいることが多く、また、習い事に行っている子どもも多いです。子どもルームに通う子どももいますが、高学年になると友達と遊びたいと考える子どもが多いようです。放課後子ども教室は、コーディネーターが高齢化し、担い手が少なくなっています。お手伝いも少ないのでPTAにお手伝いをお願いしている現状ですが、かなり負担になっています。コーディネーターを派遣してくれるようになると、負担が減ってお手伝いをしやすくなるので助かります。
- 私の地区は共働きが多いため、子どもルームや放課後子ども教室に通っている子どもが多いです。放課後子ども教室ですが、低学年の子の親は、子どもを通わせることで空いた時間を自分のランチに充てており、また、お手伝いに来てくれることはないため、コーディネーターは大変な思いをしています。放課後子ども教室は、親の時間を取るための時間ではないと思います。コーディネーターが高齢化している中、大学生ボランティアに手伝ってほしいと思いますが、近隣に大学がありません。子どもが楽しく過ごせる居場所を作っていくのであれば、若い世代の協力を得た方が良いと思います。
- 私の地区では放課後子ども教室が週1回行われており、うまく機能しているようですが、運営しているメンバーが固定化しているため後任が育っていません。そのため、現在のメンバーがやめてしまった後の心配があります。放課後の過ごし方に関しては、子どもが望んでいることが変わってきていると思いますし、親も期待していることが変わってきていると感じます。保護者は、子どもを預けるという感覚でいると、放課後子ども教室は成り立たなくなります。受け入れる側からも、保護者に対してそのことを伝えていかななくてはならないと感じています。
- 私の地区では、周辺に大学があるため学生が多く、放課後子ども教室のお手伝いをしてくれるので内容が充実しています。そのため、子どもたちは前向きであり楽しいと言っています。学校の校庭も開放されているので、学校で遊んでいる子どももいます。両親が共働きの子は、夜になってもコンビニに残っているときがあるので、心配して声を掛けることがあります。今、放課後子ども教室と子どもルームを一体化させる動きがあるようですが、事業の目的が違うこともあり、放課後子ども教室を手伝っている親から不満が出る心配があります。
- 私の地区では、放課後子ども教室としてクリケットやスポーツチャンバラを行っています。競技普及のために実施しているという側面もあります。そのような目的でも、子どもたちはいろいろな体験ができるので良いと思っています。別地区の放課後子ども教室では、地域のお年寄りの方が実施しているところがあり、うまく運営していますが、高齢化のため今年か来年が限界とのことでした。ある中学生の親からの話では、勉強のために放課後に教室を提供してもらいたいという要望がありました。できれば、そこに学生ボランティアなどが来ていただけたら助かります。

- 私は、市から補助金をいただき「ふれあい広場『ひだまり』」を開設し、地域住民のボランティアで運営しています。午前中は高齢者が使っており、放課後には子どもが集まってきてゲームしたり勉強したりしています。利用は無料で、自由に出入りしていくのですが、来た人は必ず学校名・学年・氏名を記載するため、安全・安心な居場所になっています。この補助金は3月に切れ、その後は自主運営となります。今後、子どもの居場所を考えていくのであれば、市から少しでも補助金を出していただければ、地域住民としては助かります。毎月、様々なイベントをやっており、ボランティアとして淑徳大学の学生が手伝ってくれます。
- 私は以前、放課後子ども教室を手伝っていましたが、とにかく安全に運営することに神経を使いました。この事業は子どもを預けるというのではなく、地域の方と触れ合う場であると考えています。放課後の居場所としては、3年生位までは子どもルームを利用し、高学年は習い事をしている現状が多いようです。私が子育てをしてきて思ったことは、児童館があれば良いと思いました。私の地区では、公民館は立地が悪いためほとんど利用していません。今後、放課後子ども教室で様々なプログラムを行うようですが、子どもに多くの体験をさせることは大切ですが、ある程度子どもが自由にできることも大切にしてほしいと思います。自由に遊ぶことを通じて学ぶこともあると思っています。

◎PTA 出席者からの報告を踏まえて全員で意見交換を行った

[委員長]

放課後子ども教室は、安全に運営することが一番大事だと思います。また、子どもが子どもらしく活動しているところがとても良いと思っています。少し気になっていることは、今、子どもたちは近所の公園などに集まって過ごしていることが多いようですが、そこではゲームをしている子どもが多いのでしょうか。

[PTA]

確かにゲームをしている子は多いです。ただ、全体の遊びの中でゲームをやったり、鬼ごっこをしたりして過ごしているようです。また、ゲームを通じてのトラブルもあるようです。あと、子どもが地域で遊んでいて、少しでもうるさくするとすぐに近所から苦情を言われるようなので、地域の環境も変わってきているとも感じています。

[内山委]

放課後子ども教室は、保護者が自主的にお手伝いをしているので、子どもルームと一緒になった場合は困ることがあるとのご意見がありました。私は、子どもルームは保育所の延長だと思っており、実際の利用者も多いと感じています。放課後子ども教室は、週一回程度の開催ですが、子どもたちはどう思っているのでしょうか。

[PTA]

子どもたちの放課後の過ごし方は様々ですが、塾にも行くし習い事にも行くし、そのうちの一つの選択肢として、ある曜日は放課後子ども教室に行くということが多いようです。

[和田委]

安全に自由な場所があったら良いという意見は、今後の放課後の子どもたちの過ごし方の方針として重要な部分だと思っています。皆さんにお聞きしたいのですが、プログラムの定めがなく、安全な居場所だけが提供されているものと、民間事業者などが提供する多様なプログラムにより運営していくものの2つが共存していくということについては、どのように思われますか。

[PTA]

子どもたちは受け身ばかりではいけないし、子どもが自ら考えて行動してほしいと思います。すべて与えられて、それに則ってやっていくことは良くないと思いますし、子どもが育たないのではないかと感じます。

[和田委]

その場所に行けば良いというものだけでは、子どもたちが積極的に登録・参加するのかという心配がありますし、そういったものに需要があるのかとも思います。

[PTA]

小さい子どものことなので、実際の判断は親が行うことがほとんどだと思います。このため、親が考え方に賛同するかどうかだと思います。時間はかかるとは思いますが、この2つが共存していくことはできるのではないかと思います。

[和田委]

私も児童館で育ちましたので、自由に遊べる場所が大切なことは十分理解しています。現状の放課後子ども教室は、各地域でプログラムを提供していますので、そのことで負担が大きくなり、地域の方が疲弊しているのではないかと心配しています。

[小西委]

皆さんの話をお聞きして、高学年の居場所づくりが悩ましいと感じました。健全な子どもの育成として、小さい子は指導員に構って欲しい気持ちがあると思いますが、高学年になるにつれて、大人の目が行き届かないところに行きたがると思います。そのため、如何にして安全な場所で、大人が見ていないけど目が行き届いているような空間を作っていくのが難しいと思いました。少し「ひだまりキッズクラブ」についてお聞きしたいのですが、ここでは高学年の子どもも来ているのですか？

[PTA]

高学年も来ていますが、実施するメニューによります。ケーキ作りとかバザーのような内容だと高学年は来ます。

[小西委]

高学年の子どもが自分で企画して何かを行うというものだと参加しやすかったりしますか？

[PTA]

基本的に平日は何もやらないので、当番のボランティアがいる中で自由に遊んでいます。そのため、高学年の子どもが良く来ます。

[小西委]

他の地域でも、「ひだまりキッズクラブ」のような活動をしているところがありますか？

[PTA]

稲毛区と美浜区では、子どもカフェを運営していますが毎日ではありません。近くに住んでいる子どもは利用していますが、近くにない場合は、子どもは行きたくても行けません。

[明石委]

現在、実施している放課後子ども教室では運営協議会があると思いますが、その存在や協議会メンバーを皆さんは知っていますか？私がお話したかったのは、そういった仕組みなどを知っておく必要があるということです。千葉市では、週1回実施していますが、ゆくゆくは他市での事例のように、毎日実施するかもしれません。しかし、毎日実施するにはお金が要ります。そのため、毎日実施してほしいと思っているのか、または子どもルームで良いと思っているのかなどについて、意見をお聞きしたいと思います。

[PTA]

以前、私が携わっていたころは、教育委員会から運営協議会を立ち上げるよう依頼があり、立ち上げました。委員には個々に役割があり、毎年、会議も行っていました。現在は、運営協議会の実行委員会を立ち上げ、子ども教室を運営する体制を取っています。ただし、地区により実態は様々で、新年度が始まってすぐに体制が整う地区もあれば、コーディネーターが高齢化していることなどにより、年度途中まで体制が整わない地区もあります。そのように、各地区で温度差があるので、市で統一していただきたいと思っています。

[明石委]

市において、子ども教室と子どもルームの所管課が違うことについては、どう思いますか？

[PTA]

私は、縦割り行政は排除すべきだと思いますし、できるだけ組織をスッキリさせるべきだと考えています。なぜならば、今後、人口は減少していく見込みなので、もっと組織をスリム化したほうが良いと思います。子どもたちを対象としたこの事業は大切なものなので、もっとシンプルにしていったほうが、長く続いていくと思います。

[明石委]

放課後子ども教室のスタッフは、時間給をだして運営する有償ボランティアが良いのか、また、無償のボランティアが良いのかについては、どのように思われますか？

[PTA]

子どもルームのように、毎日実施するものならば、負担が多いので無償ボランティアは難しいと思います。人によってはお金をもらって運営していくものだと、仕事になってしまうので、責任を感じてしまう方もいると思います。そのため、一長一短があると思います。

[和田委]

先程の話の中で、放課後子ども教室に「子どもを預ける」という感覚の親が増えているとのことでしたが、そういった保護者には、どのように接していったらよいと思いますか？

[PTA]

ひとつは、PTAという組織がキーだと思っています。なぜなら、保護者が集まる機会があるためです。しかし、それを正面から「その感覚を修正していく」といったら、誰も集まらないと思いますので、それをうまく伝えていくというか、気づきを与えていくのが大切だと思っています。私たちもできる範囲で、伝えていこうと思っています。

[和田委]

これはとても難しい話だと思います。保護者が望むことを行うことは大切だと思いますが、望むことばかりやっていると方向性が変わってしまうこともあります。ある程度、希望を聞きながら修正していく必要があると思っています。

[PTA]

私もその点が気になっており、何が大切なのかを見極める必要があると思います。一時の意見だけで、何かが決まるということには反対です。市民側もよく考えてから発言すべきだと思うし、お互いの話をよく聞いて冷静に判断すべきだと考えます。

[教育長]

私は、保護者が「子どもを預ける」という感覚は、ある程度、仕方がないと思っています。なぜなら、学校自体がそうだからで、学校にも預けるという感覚になっていますから、それを修正していくことは難しいと思います。それらを捉え直さなければいけないと思っています。放課後子ども教室は、子どもたちが地域で学んで地域で交流するということが目的なので「預ける」ということではありません。一方、子どもルームは、予算の規模も違いますし、子どもルームは保育所の延長なのです。まさしく「預ける」なのです。このことから、この2つの事業は性格が全く違います。私の率直な感想としては、皆さんが子どもルームにあまり行かせていないということが、とても新鮮でした。現状、子どもルームがあるからその学校に行かせてほしいという保護者もいるからです。また、子どもの判断で子どもルームに行くのをやめたとか、面白くないから1年で行くのをやめたなどという実態を掴んでいなかったと感じました。子どもルームは、保健福祉行政に変わって教育から少し離れてしまいましたが、教育委員会ももっと関わっていくべきと感じています。いずれにしても、その2つの事業があることで、一番混乱しているのは子どもや保護者だと思います。この2つを一本化して行く動きがある中で、今日は貴重な意見をお聞きできたと思っています。

[明石委]

来年度、文科省でも、コーディネーターと統括コーディネーターを配置することに予算をつけることにしています。そうしていかないと保護者にばかり負担がかかってしまう現状を変える必要があると考えており、千葉市でもモデル事業を始めます。

(3) 閉会